

第2期福津市まち・ひと・しごと創生総合戦略 市民意見公募によるご意見・回答表

NO	提出された意見（概要）	市(実施機関)の考え方
1	<p>(P14 商工業の振興3行目について)</p> <p>①「市民が市域内での消費を促す取り組みを支えます。」という文言が指す意味が分かりにくい。 また、商工業の振興の取組内容にこの点は反映されているのか。反映されているのであれば、内容が分かりにくい。</p> <p>(P15 雇用の創出について)</p> <p>②図「産業大分類別従業者構成比」は、何を説明するために引用されているのか。</p> <p>③取組内容の「企業や事業所の誘致」について、図「子ども子育て支援に関するニーズ調査」の結果から飛躍しすぎているように感じる。就労の妨げになっていることが何かという調査結果があるのであれば併せて引用すると取組内容につながると考える。 また、同図のフルタイムへの転換希望結果について、転換希望者のほうが過半数を下回る中で、パートタイムの就労場所を創出するべく取り組むのであれば、結果の引用は「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望する人が高い割合となったこと」もしくは「フルタイムへの転換希望者は27.3%に留まった」等、結果から方向性が読み取れるような文言にしたほうが分かりやすい。</p> <p>④図の引用をこのとおり順番にするのであ</p>	<p>①ご指摘いただいた箇所につきまして、次のとおり表現を修正させていただきます。また、取組内容との関連については、市創業支援体制の充実における市内での消費活動をしていただく場の創出支援や、事業者相談窓口の充実における、事業所の方々の活動環境整備のための相談窓口の充実で図っていくこととしています。</p> <p>【P14（合冊版 P18）「商工業の振興」修正】 市民の積極的な市内消費を促す、市内事業者の取り組みを支えます。</p> <p>②産業大分類別従業者構成比は、本市の産業構造に関する補足情報として引用しています。</p> <p>③「基本目標Ⅰ 地域資源を生かした魅力ある稼ぐしごとづくり」において、子ども・子育て支援に関するニーズ調査の結果に対応できる施策として本案で提示できるものを検討した結果、コワーキングスペースの開設の誘導やリモートワーク等の新しい働き方に対応できる環境の創出、市内における働く場の情報発信を取り組みとして進めることを示しています。なお、お尋ねにあります、就労の妨げになっていることに関連するものとしては、同調査内において、「仕事と子育てを両立させるために必要なこと」という設問があり、「家族の協力」90.8%、「職場の中の意識や理解、協力体制」71.1%、「学童保育所の整備・充実」47.2%、「労働時間の短縮制度の導入」38.8%と回答をいただいておりますが、本基本目標における取り組みの趣旨と関連して示すことが難しいため、引用をしないこととしています。また、フルタイムへの転換希望に関する記述については、次のとおり修正させていただきます。</p> <p>【P18（合冊版 P22）「問 フルタイムへの転換希望」】 フルタイム以外で就労している保護者の希望としては、パート・アルバイト等の就労を続けることを希望する人は、小学生の保護者で66.0%、乳幼児の保護者で54.8%になりました。また、フルタイムへの転換を希望する人は、小学生の保護者で27.3%、乳幼児の保護者で36.5%となりました。</p> <p>④本案の構成として、図は●テレワーク経験者の意識変化、次に●子ども・子育てに関するニーズ調査とさせていただくため、取り組み内容の順番は変更しないこととします。ご理解賜りますようお願いいたします。</p> <p>⑤P23（合冊版 P27）「地域の魅力発信による域外との関係構築」における【取組内容】の</p>

<p>れば、取組内容の順番が逆のほうが分かりやすいと思う。</p> <p>(P23 地域の魅力発信による域外との関係構築について)</p> <p>⑤ 4 行目に「〔取組内容〕」の文言が抜けている。</p> <p>(戦略全体を通して)</p> <p>⑥ 地域資源である農林水産業就業者の高齢化による担い手不足という課題に対して、特効薬となるような取組に欠ける印象である。販路の開拓や地産地消の推進、若い世代の育成等の取組をあげているが、学生や子育て世代とターゲットを広く取りすぎて上手くマッチングするように思えない。</p> <p>福津市の産業構成中、第 1 次産業が占める割合が少ないことや従事者数も少ないことを考えると、福津市の稼ぐ力を真に伸ばすのであれば、保健衛生・社会事業などの大部分を占める産業に関する取組にフォーカスすることも必要ではないか。</p> <p>また、農業でいうと、例えば糸島市は、小売販売の他に加工販売や体験農地、観光農地の取組もあり、近年発展しているように思える。第 1 次産業を今後も発展させていくと考えるのであれば、よりの絞った取組が必要だと考える。</p>	<p>脱落については、ご指摘の通りです。修正させていただきます。</p> <p>⑥ 担い手不足に対する取組につきましては、担い手の地域への定着等も視野に入れると、地道な取組みに時間をかけて進めていくことが必要であると考えています。</p> <p>また、本市の大部分を占める産業に関する取組みにフォーカスすることや、具体の取組みの検討に関しましては、今後それぞれの事業において最善と思われるターゲットを絞っていくこととします。</p>
--	--

2	<p>①情報発信について、コミュニティラジオは届く範囲が狭い代わりに近隣への情報発信には向いていると思うので、福津市でコミュニティラジオが出来れば良いと思う。</p>	<p>①情報発信の方向性については P23（合冊版 P27）の「魅力の発信とブランディング」に示す通りですが、ご提案いただいた考え方等につきましては、具体的な施策や事業の立案の際の参考とさせていただきます。</p>
3	<p>①縫殿神社は古代史的にも価値のある神社なのに、少し寂しい佇まいであった。ファッションの好きな人とかアパレル業界の関係者に周知していただき、有名になっていただきたい。</p>	<p>①情報発信の方向性については P23（合冊版 P27）の「魅力の発信とブランディング」に示す通りですが、ご提案いただいた考え方等につきましては、具体的な施策や事業の立案の際の参考とさせていただきます。</p>
4	<p>①町づくり（都市計画）は中長期計画（30～60年）と短期計画（3～5年）の2つを作ること。 ②中長期計画には、福津市が天から与えられた恵み（自然）を最大限に活かすことを明示すること。 ③両計画には抽象的表現だけでなく、都市計画に不可欠な諸要素（人口、人口密度、公園配置、用途指定等）について、具体的な数値を明示すること。 ④市行政はこれまで大失策を繰り返してきたので、行政改革をすることを明示すること。</p>	<p>①②③④今回は 2024 年度までを計画期間とした第2期福津市まち・ひと・しごと創生総合戦略に対するご意見を募集したものであり、提案されたご意見はその趣旨から対象にならないものと考えますが、いただいた考え方等につきましては、今後の市政の参考とさせていただきます。</p>

<p>5</p>	<p>①第2期素案に関して少し近視眼的な施策が見受けられるように感じられました。そこでこの第2期の素案を元にして個人的に第3期福津市まち・ひと・しごと創生総合戦略を考察してみました。第2期の総合戦略を考えるにあたり少しでもヒントになれば幸いです。</p> <p>計画期間：2025年～2029年 5年間 基本構想：相互自助の暮らしの実現 ふくくつし (基本構想実現の為の3つの視点)</p> <p>(1)地域で経済を循環させる地域通貨 ふく通貨の流通 (2)地域で稼ぐ場づくり しごと場とヒトを繋げるプラットフォーム ふく集い (3)マイクロツーリズムの成熟とインバウンドマーケットへの展開 ふくツーリズム (仕組みづくり)</p> <p>(1)ボランティア・地域活動から実経済で利用できる地域通貨の流通により地元で経済を循環させる (2)テレワーク、副業の拡がりなどからシェアオフィスの需要は間違いなくあり第2期総合戦略を元に地域に点在するプラットフォームでワーケーションといえは福津市というブランド化 (3)改めて地元の観光資源を見直す DM O設立後福津市はもちろん近隣、福岡県としてインバウンドマーケットの発信源となる</p>	<p>①中期的な視点からのご提案をお寄せいただき、ありがとうございます。第2期福津市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)は、国の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間と揃えるために2024年度までの計画としていることから、短期的な施策が多い点をご理解賜りたいと思います。</p> <p>「福津市の内部だけで生活ができることが実現されているイメージ」という考え方は、P12(合冊版 P16)の「市域内での消費・雇用の拡大」、P19(合冊版 P23)の「コワーキングスペース開設の誘導やリモートワーク等の新しい働き方に対応できる環境の創出」、観光振興についてはP20(合冊版 P24)からの「Ⅱ. 地域の活力と賑わいを生み出すつながりづくり」に示す通りですが、基本的な考え方は本戦略の方向性と同じと考えます。いただいた考え方等につきましては、今後の具体的な施策や事業の立案の際の参考とさせていただきます。</p>
----------	---	---

<p>6-1</p>	<p>(検証と課題について)</p> <p>①福岡市と北九州市のベッドタウンとしての都市なので、福岡市の動きに合わせての人口増加は想定できる。観光についても、JALのCMなど、たまたまタイミングがよかったから観光客の数字が増えたのが大きく、福津市が何か取り組んだ成果とはいいいがたい。数字のみで判断せず、内容なども含めたところまで検証すべきではなかったか。(全体について)</p> <p>②人口ビジョンがない。</p> <p>③2016年3月策定の福津市人口ビジョンに掲げた「2040年時点で6万7千人の総人口を維持する」について、目標人口もなく、維持だけを掲げて、どのような年齢層の人がいればいいかも見えない。</p> <p>④福津市にとって適正人口は(年齢分布も)</p> <p>⑤まちづくりをするなら、行政の中でも力を持ったプロジェクトチームが必要。縦割りが弊害になっているのであれば、物事はうまくいかない。縦割りにも動じない強いチームが必要。その中には、市の職員だけでなくマーケティングなど専門性のある人材、特に20代前後で進学・就職で福津を離れた若い世代にもそこを担ってもらう(若者の福津に対するかわりにもつながる)。</p> <p>⑥50年先の福津市は?そういった視点で考える必要がある。</p> <p>⑦戦略を立て、それが4年後に実現可能か</p>	<p>①地方創生の取り組みに関しましては、外部有識者で構成した地方創生效果検証会議を平成28年度から毎年開催しています。KPI数値の達成状況が検証の中心とはなりませんが、各事業における数値で測ることができない取り組みに関しても検証を行っていただいております。各委員のご意見は後年の事業の見直し等の参考としています。なお、検証会議の結果は、市公式ホームページにて公表しています。</p> <p>②人口ビジョンにつきましては、(第1期)福津市まち・ひと・しごと創生総合戦略と合わせて平成28年3月に策定しておりますが、策定から4年が経過し、人口ビジョンを上回る人口増加が続いていることから、今回の第2期福津市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)の作成に合わせて見直しを行いました。人口ビジョンは第2期福津市まち・ひと・しごと創生総合戦略の考え方の基礎となる部分であり、本案において同一の冊子内に付録として構成した方が市民の皆さんにも分かりやすくお伝えできると考えますので、巻末に付け加えることとします。</p> <p>③今回は第2期福津市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)に対するご意見を募集したものであり、提案されたご意見はその趣旨から対象にならないものと考えますが、2040年時点で6万7千人の総人口を維持するが目標人口であり、人口ビジョン合冊版P60に年少人口、生産年齢人口、老年人口の区分別人口を示しています。</p> <p>④いただいたご意見は、直接的に第2期福津市まち・ひと・しごと創生総合戦略(素案)の内容に対するものではないと考えますが、将来の人口の規模に関する考え方の1つとして、第2次福津市都市計画マスタープランに「市街地における将来の人口密度60人/haを目指します」と示しています。</p> <p>⑤まちづくりの推進に係る行政経営の考え方の一つとして、本戦略の上位計画に当たる「福津市まちづくり基本構想」の中で「部経営の推進と職員の創造性や政策立案力の向上を促進することで、自律的なマネジメントによる組織運営を図るとともに、チーム福津として、部課を横断した情報共有やプロジェクトにも積極的に取り組みます」と示すとともに、本戦略のP7(合冊版P11)「人材の確保」に高度な専門性を有する人材の確保に関する考え方を示しています。</p> <p>⑥本戦略の上位計画に当たる「福津市まちづくり基本構想」に2030年の市の将来像とその考え方を示しており、本戦略は市の将来像の実現に向けて地方創生に関連する分野として取り組む短期的な方針を示したものです。まちづくりを進めるに当たり、市の将来像を描き、市に関わる様々な方と共有することは重要なことです。</p> <p>⑦P5(合冊版P9)に示すように、国の第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略において 【基本目標1】稼ぐ地域をつくとともに、安心して働けるようにする 【基本目標2】地域とのつながりを築き、地方への新しい人の流れをつくる</p>
------------	---	--

<p>どうかしっかり考えていくことが必要。理想論ではなく、現実的にもっと絞って小さくなくてもかまわないので、実現ができる計画を立ててほしい（あれもする、これもするではなく、「大きな企業を1つ誘致しましょう」という形にするなど）。</p> <p>（基本目標Ⅰについて）</p> <p>⑧ゴンタ人形、光の道（JALのCM）など、メディアで紹介されたから爆発的に人気が上がっただけで、それがなかったらどうなっていたかわからない。</p> <p>⑨福津の魅力を伝えるための専門家集団（市職員、旅行会社、出版関係、市内の飲食、観光関係）の事業者を立ち上げる。</p> <p>⑩郷づくり、地域の中にいる専門家の発掘。その人から教えてもらう場の設定。</p> <p>⑪プロモーションに力を入れることが必要。</p> <p>⑫リトルムナカタなどでのPRを福津市民が知らない。</p> <p>⑬行政の人材育成、民間のアイデアを取り入れながら、市職員のスキルアップ。</p> <p>（基本目標Ⅱについて）</p> <p>⑭国際的なマリンスポーツ（海岸線を活かしてのトライアスロン等）の誘致やサイクリングロードの整備。</p> <p>そのためには海岸線にホテルなど宿泊施設の誘致が必要。ホテルの活用として、お悔やみ事の遠方からくる親族の宿泊地としても利用ができるかも（ニーズ調査が必要）</p>	<p>【基本目標3】結婚・出産・子育ての希望をかなえる</p> <p>【基本目標4】ひとが集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる</p> <p>の4つが基本目標として掲げられており、これらが地方創生に対する国の基本的な考え方ともいえます。地方に魅力ある地域ができることで都市部から地方への人の流れが生まれ、地方が活性化するためには、これらに横断的に取り組む必要があるという考え方です。地方創生は国と地方が一体となって取り組む必要があるため、本市の戦略も国と同様に分野を横断した様々な取り組みを掲げた内容となっておりますが、2024年度までの目標達成を目指し、これらの取り組みを進めてまいります。</p> <p>⑧ご指摘のとおり、市の魅力を発信して各種メディアに取り上げてもらうのは、地道な働きかけが無いと難しいものと認識しております。例として挙げていただいたものも含め、市としてもこれまで様々な働きかけを行ってまいりました。今後の情報発信の方向性につきましてはP23（合冊版P27）の「魅力の発信とブランディング」に示す通りです。</p> <p>⑨いただいたご意見はP21（合冊版P25）に示す通り、観光地域づくり法人（日本版DMO）にて取り組むこととしております。</p> <p>⑩P29（合冊版P33）に示す「（仮称）幸せのまちづくりラボ」にて、市内の様々な専門性を持った人材の発掘と活用方法を検討することとしております。</p> <p>⑪シティプロモーションについてはP23（合冊版P27）の「魅力の発信とブランディング」に示す通りです。</p> <p>⑫シティプロモーションについてはP23（合冊版P27）の「魅力の発信とブランディング」に示す通りです。市の対外的なPR等の取り組みに関する市民への周知につきましては、広報誌、市公式ホームページ等を活用して行ってまいります。</p> <p>⑬地方創生を推進するに当たって必要とされる職員像についてのご意見と推察いたしますが、本戦略では地方創生の実現に向けて実施する事業等の方向性を示すに留める内容のため、職員の人材育成については福津市人材育成基本方針など他の計画で示すこととなります。</p> <p>⑭観光施策の方向性につきましてはP20（合冊版P24）からの「基本目標Ⅱ.地域の活力と賑わいを生み出すつながりづくり」に示す通りですが、いただいた考え方等につきましては、具体的な施策や事業の立案の際の参考とさせていただきます。</p> <p>⑮若い世代のまちづくりへの参画促進に関するご意見と推察しますが、相手方の意向にもよりますし、実施には様々な制約が想定されますので、今後の事業検討の参考とさせていただきます。</p> <p>⑯企業や事業所の誘致の方向性につきましてはP19（合冊版P23）の「企業や事業所の誘</p>
--	---

<p>⑮福津市に大学の水産学部などを誘致すれば、若い人も住むし、一緒に市の特産品の開発もできるのではないか。 (基本目標Ⅲについて)</p> <p>⑯企業内保育園とのセットで企業誘致。病児保育園の誘致</p> <p>⑰妊娠～出産～未就学児までの説明はあるけど、小学生や中学生、高校生までに触れていないのはおかしい。</p> <p>⑱子育て中の母親同士が交流できる場を設けてほしい。</p> <p>⑲教育委員会は独立機関としているが、総合計画を立てるなら一緒に考えるべきでは。</p> <p>⑳若者に福津市に対して魅力を感じてほしいと言いながら、この状態では高校生から20代前半は宙ぶらりんの状態で、居場所のなさを感じてしまう。 (基本目標Ⅳについて)</p> <p>㉑「次世代を担う」年代がよくわからない。</p> <p>㉒転出が多くても、それ以上に戻ってくる数が多くなればいいのでは。 転出数にこだわりすぎな印象がある。</p> <p>㉓進学や就職でいったん福津市を離れても、将来福津市で働いて生活できる魅力的な市ならきっと若い人は戻ってくる。 アイターンする人もいる。</p> <p>㉔コミュニティスクールの実施から10年経過し、地域の方に見守られながら育った子どもたちがそろそろ成人になるころ。その子たちがこの福津市をどのように感じているかという答えを持ってくる</p>	<p>致」に示す通りですが、新たな病児保育施設を誘致する予定は今のところありません。 いただいた考え方等につきましては、具体的な施策や事業の立案の際の参考とさせていただきます。</p> <p>⑰基本目標Ⅲの考え方や対象年齢につきましては、福津市第2期子ども・子育て支援事業計画の方向性をふまえた内容としており、小中学生や高校生も対象としています。</p> <p>⑱子ども・子育ての方向性につきましては P24 (合冊版 P28) から示す通りですが、いただいた考え方等につきましては、具体的な施策や事業の立案の際の参考とさせていただきます。</p> <p>⑲基本目標Ⅲの中に学校教育に関連する事項が含まれていない点に対するご意見と推察しますが、本戦略の上位計画に当たる「福津市まちづくり基本構想」にて 2030 年の市の将来像とその実現に向けた教育分野を含む7つの分野の方向性を示すとともに、教育分野の具体的な施策に関しては、福津市教育大綱をはじめ第2期福津市教育総合計画等に示しており、本戦略で取り扱う子ども・子育てとは分野を分けて整理しておりますので、ご理解賜りたいと思います。</p> <p>⑳若者に市との関わりを持ち続けていただくための取り組みの方針は P28 (合冊版 P32) の「若者の地域におけるキャリア形成支援」に示す通りですが、いただいた考え方等につきましては、具体的な施策や事業の立案の際の参考とさせていただきます。</p> <p>㉑「次代の地域を担う若い世代」は、主に 20 歳代から 30 歳代を想定しています。</p> <p>㉒・㉓基本目標Ⅳの取り組みにおいては、必ずしも転出者数のみにこだわっているわけではなく、P28 (合冊版 P32) の「若者の地域におけるキャリア形成」に示すように、地域を離れても関わりをもってもらうような、いわゆる関係人口を増やす取り組みも重要と考えています。一方で、市の魅力向上によりUターンやIターンで若い人を増やすという考え方も重要です。いずれにせよ、若い人たちが市の魅力や可能性を知る機会の創出が必要であるとの考え方を P27 (合冊版 P31) からの基本目標Ⅳで示しています。</p> <p>㉔基本目標Ⅳに基づく取り組みを進めるにあたっては、コミュニティスクールを経験した若い世代へのアプローチの手法として、オンライン型のウェブ会議等での対応を進めてまいります。</p>
--	---

	<p>のではないか。 福津市に関わっている若い世代が今も増えてきている。その人材が能力を発揮できる「場」を作っていくことも必要。県外にいながらでも参加できるオンライン型などの方法も。</p>	
--	---	--

<p>6-2</p>	<p>(全体について)</p> <p>①総じて人口動態などの現状及びこれからの人口推計などは素晴らしい分析は評価できるが、人口動態の流れや男女別や年齢別就労者などのセグメンテーションができていればもっとよかった。出来れば産業別就労者数、産業別所得（収入）や地域別所得など戦略立案の基礎分析資料があればもっとよかったのでは。また、現状評価分析についての課題は。</p> <p>②基本計画中間点でこれまでの評価に触れていないのは見直しに多大な影響がある（目標に対し及第点にあるのか進んでいなければ何が課題なのか、社会情勢が激変で目標の見直しなど）。</p> <p>③人口動態ではここ数年人口増を喜んでいる様に見えるが、日蔭野や厚生年金スポーツセンターに新たな住宅団地を造成したので人口増は当然である。一方、15歳～64歳の労働人口の減少要因の分析結果が見えず、九州全体から見れば福岡市の一人勝ちの波及効果で福津市の人口が増えていることを認識すれば、日本全体の人口減で福岡市の人口増の成長が止まれば急激な人口減となり、壊滅的な福祉破産が待っていると思われる。日蔭野や厚生年金スポーツセンターなど新興団地は数十年先には高齢者の限界集落となる（原町、光陽台、若木台などは福岡市の人口増の影響で世代交代が進みつつあるが、全国の人口減で福岡市の住</p>	<p>①人口動態に関する分析は人口ビジョンで示すこととしております。現状の評価分析には様々なデータが必要ですが、データの分析や評価に関する職員のスキル向上が今後の課題と考えております。</p> <p>②地方創生の取り組みに関しましては、外部有識者で構成した地方創生效果検証会議を平成28年度から毎年開催しています。KPI数値の達成状況が検証の中心とはなりますが、各事業における数値で測ることができない取り組みに関しても検証を行っていただき、各委員のご意見は後年の事業の見直し等の参考としております。また、本戦略も第1期戦略の評価をふまえた内容としております。なお、検証会議の結果は、市公式ホームページにて公表しています。</p> <p>③ご意見のとおりです。持続可能なまちづくりのためには今後も継続的に一定数の転入者数を確保する必要があり、そのために本戦略に示す取り組みが重要と考えております。</p> <p>④地方創生に関する分野を超えた市の大きな方向性に関わるご意見ですので、いただいた考え方等につきましては、今後の施策や事業の立案の際の参考とさせていただきます。</p> <p>⑤⑥農水産業の振興に関する考え方はP12（合冊版P16）からの「農業・水産業の振興」に示す通りですが、いただいた考え方等につきましては、具体的な施策や事業の立案の際の参考とさせていただきます。</p> <p>⑦企業誘致に関する考え方につきましては、P19（合冊版P23）の「企業や事業所の誘致」に示す通りですが、いただいた考え方等につきましては、具体的な施策や事業の立案の際の参考とさせていただきます。</p> <p>⑧観光振興に関する考え方はP20（合冊版P24）からの「基本目標Ⅱ.地域の活力と賑わいを生み出すつながりづくり」に示す通りですが、いただいた考え方等につきましては、具体的な施策や事業の立案の際の参考とさせていただきます。</p> <p>⑨出産・子育てに関する考え方につきましては、P24（合冊版P28）からの基本目標Ⅲに示す通りですが、いただいた考え方等につきましては、具体的な施策や事業の立案の際の参考とさせていただきます。なお小学校の大規模解消問題については、教育関連の計画等で取り上げる課題として分野を分けて整理しております。</p> <p>⑩いただいたご意見は本戦略の方向性と同じであると考えます。個別の内容につきましては、今後の施策や事業の立案の際の参考とさせていただきます。</p>
------------	--	--

	<p>宅事情が改善され世代交代が望めないこと予見される)</p> <p>④「策定の目的」に課題として取り上げているが人口の流入制限、人口増への対策、高齢者も税収の一端を担ってもらい、高齢者のためのコンパクトシティを目指した対策や交通網の整備、学校などのインフラ整備についての対応策が盛り込まれていない。</p> <p>(基本目標 I について)</p> <p>⑤先ず市場ありきの想定に見受けられ、Eコマースなどの手法が優先されているようですが、市場を創る発想がない。</p> <p>ビッグデータを利用した「地区別農産物の推奨策」なども行政の役目では。平野が少ないことを鑑み平面農業振興地、ハウスなどを利用した高付加価値農産物振興推奨地、交通の便を生かした農産物生産工場・・・など細分化した農業施策と物流をつないだ福津市の特性を生かせる多変量解析手法での仕組みづくりなどを行政に望む。</p> <p>例えば商社や運送業などと手を組んで特産品を全国ブランドに仕立て上げる。</p> <p>(特産品のブロッコリーなども年間を通して供給できる栽培法、夏場でも美味しい新品種開発を産官学で進めるなど)</p> <p>一方ニッチな市場を目指した高付加価値特産品を作り上げる(残念ながら全国規模で大市場向けにマスプロダクト(年間を通して相当量を供給するだけの生産力)する実力が当市にあると思えないので、ニッチマーケットを自ら創り出</p>	
--	--	--

	<p>す)。</p> <p>⑥農業の工業化を進める。 例えば、近隣の企業と手を組み野菜生産工場の誘致。 水産業についても、獲る漁業から育てる漁業への変革と稼げる漁業を模索とあるが、九大の水産研、水産高校や近隣大学（近大、福大など）との連携と連携し「お魚牧場」の藻場、漁礁作りから観光遊漁船、お魚食べ処まで・・・など一貫した仕組みづくりに行政の旗振り役が望まれる。 これらの産業を創生・育成するには行政の指導力、支援、援助が不可欠であり、行政は起業の道筋を支援し経済面も含め「市も出資した支援機構」を設立し国内外の企業との連携や投資家の力を借り、起業への支援をする仕組みを作る方策について触れてもらいたい。現状では市の取り組み方が傍観者になっているように見える。</p> <p>⑦就労の場としての「企業誘致」を明記しているが、企業誘致は容易には望めないと思えるので、最近の新型コロナ対応で一般企業はテレワークが急速に進んだのを機会に、既にテレワークを進めている企業の経験と力を借り「テレワークに適した環境のまちづくり」「働き方改革に最適なまちづくり」（例えば：オフィスレス会社、生産から物流までを異業種連合テレワークオフィスなど）を策定したまちを全国に売り出す。</p>	
--	--	--

	<p>(基本目標Ⅱについて)</p> <p>⑧近隣市町村も観光客誘致に多くのエネルギーを割いており、観光資源の少ない当市では並みの努力では多くを望めない。従って、数少ないインバウンド客に如何にお金を使ってもらうかに最大限の目標に定め投資すべきと考える。</p> <p>具体的には</p> <p>(1)福津ならでは食事提供（鯛茶づけは素晴らしいが、冬場のフグやヒラメなど年間を通した食事や食材も考える）</p> <p>(2)食べ処の整備（ロケーションの良い海岸での食事と合わせ駅前の名物料理食事処や駐車場を備えた名物食事街）</p> <p>(3)お土産品創り（JR、物産株式会社などと連携したお土産品づくりと併せ、福岡市や博多駅などでの販路開拓）</p> <p>(4)交通網と駐車場の整備（大型バスの乗り入れと駐車場）。</p> <p>(5)サイクリストの集うまちづくり、湘南と連携しウインドサーフィン全国大会、など新たな方策で全国に知らしめる手立てを考える。</p> <p>(基本目標Ⅲについて)</p> <p>⑨まちづくりに「子育て」が独立してあるのではなく、まちづくりのインフラ（基幹整備事業）として道路網・上下水道・交通網・小学校・中学校などと同列に整備する事柄であり、職住接近を狙いしたり、福岡市のベッドタウンに市を位置付けるのであれば、働く親が安心して働ける「幼稚園」「保育所」「一時預か</p>	
--	---	--

り」は交通結節点近くにあることが必須。

また、妊娠中の家族や子育て中の家庭向けの24時間対応の「子育てなんでも相談センター」「妊娠中の不安解消サークル」などの開設と併せ、市内の事業所に託児所併設支援策など親への支援や助成を望む。

また、小学校の大規模解消問題は喫緊の課題であり避けて通れない項目なので、内容は薄くても明記すべきと考える。

(全体を通しての修正意見)

⑩住民目線に合わせた従来からの延長線上の企画立案が求められるが、今回の新型コロナ禍を考えると国の方針が大きく変わる(地方交付金の大幅減など)ことも念頭に近隣市町村に無い福津市の特徴を生かした戦略立案が不可欠と思われる。当面、以下の事柄について近隣の市町村に勝る戦略が望まれるが、今回のパブリックコメントの内容では今一步具体性と実現性に欠け企画の加筆修正が望まれる。

(1) 稼ぐ場所づくり・稼ぐ職場は生産、加工、物流、販売、サービスなどの分野があり全てにまんべんなくちりばめるのではなく限られた資源を集中して焦点を絞った施策にする。

6次産業への取り組みと併せ、県域外の異業種連携などに取り組む仕組みづくりなどは、商社などプロの力を借りる。

(2) 来訪者にはお金を使ってもらおう・・・

	<p>観光目的の来訪者は「お金を使う目的で来訪」するのでお金を落としてもらう仕組み（食事処、お土産、参加型遊びなど）をもっと短期に実現できる仕組みを企画する。</p> <p>(3) 福津市は田地畑を有する旧集落と外者の多い団地で構成されており、それぞれの特質をいかして市の財産として活用する。</p> <p>経験と実績を価値として認め、知恵と知識を有する団地グループは個々人の特質を活用する仕組みを作り、資産を有するグループとの連携した福津特有の仕組みにする。</p> <p>当事者の達成感や参加意欲を満足させ、高齢化対策の仕組みや市全体のスキルアップとして画策する。</p> <p>(4) 現在知られている資源「光の道」「ブロッコリー」「住みやすいまち」などをもっとプラシユアップし前面に出し全国版に仕立て上げる(Web とかマスコミの活用など)</p>	
6-3	<p>(子育てに関することについて)</p> <p>①学校教育のことが全く入っていないのはなぜか。</p> <p>コミュニティスクールの在り方を再検討する必要がある。</p> <p>(地域の子育て支援の輪・・・について)</p> <p>②育成会加入者減少の実態を把握しているのか。組織の在り方を再検討。</p> <p>就労したいと考えている子育て世代について、就労したい理由は？経済的理由？(豊かな自然と住環境の良さを生かし・・・)</p>	<p>①コミュニティスクールの在り方を含め、教育に関する市の方針等は福津市教育大綱をはじめ第2期福津市教育総合計画等に示す通りであり、本戦略で取り扱う子ども・子育てとは分野を分けて整理しておりますので、ご理解賜りたいと思います。</p> <p>②本案に関しては、育成会に限らずさまざまな生活の形態に則した子育て支援の輪の形成について検討を進めていきます。また、就労したい理由に関しては、お示しできる情報を持ち合わせておりませんので、今後の事業組み立て時の必要に応じて、調査を検討してまいります。</p> <p>③個別の事業に対するご意見は、今後の施策や事業立案の参考とさせていただきます。</p> <p>④昨年度の市民アンケート調査でスマートフォンの保有率が70%を超えていたことに鑑み、SNS等を活用した情報発信媒体のデジタル化を進めることで、スマートフォン等を通じた情報提供の機会が増え、市民の皆さんが必要とする情報をいつでも得ることが</p>

<p>について)</p> <p>③団地内の公園をもっと整備してほしい。フクスタは一部の子どもにしか利用されていない。全ての子どもが平等に利用できるようにしてほしい。 不登校の子供の受け入れとか、学校以外のまなび場として利用できるようにする。 (子育て支援のデジタル化促進について)</p> <p>④デジタル化を促進することが情報提供の体制を整備することに繋がるのか。 まずは今ある広報誌をもっと誰もが読みたくなる紙面になるよう工夫するとか。 (男女共同参画の形成とは?)</p> <p>⑤職場が近いから子育てに積極的になるかどうかは個人によって違う。 時間があっても協力しない人はしない、意識の問題。</p> <p>⑥全体的にぼんやりとしていて具体的なことが盛り込まれていないと感じる。</p> <p>⑦福津市の特産品「クリームスイカ」をしつかりブランド化する。 例えば高級メロンを扱う京橋千疋屋に販路を作る。さらに、クリームスイカの購入者に福津市の魅力を伝えていく。贈答用としても販売できるので全国に福津市の名前を広められる。クリームスイカの産地として福津市に訪れてもらえるようツアーを企画する。</p> <p>⑧福津市にはビジネスホテルは向かないように思う。地域の特性を生かすのなら古民家を利用した民宿や海岸沿いにコテージなど、夏に別荘のように利用して固定</p>	<p>できるような体制の整備が必要と考えております。</p> <p>⑤P24(合冊版 P28)の「子育て支援の充実」は、妊娠・出産・子育てを男女共通の課題として捉えることができる男女共同参画社会の形成を推進する内容を示しており、推進に当たっては意識改革を促す啓発等に取り組むことが想定されます。職住近接のみによって子育てに対する意識が変わるとは考えておりません。</p> <p>⑥具体的な事業の内容につきましては、今回策定する第2期福津市まち・ひと・しごと創生総合戦略に沿って庁内の各担当部署で検討・立案することとしていることから、やや抽象的な表現とならざるを得ない点をご理解賜りたいと考えます。</p> <p>⑦第1次産業の振興につきましては、P12(合冊版 P16)からの「基本目標Ⅰ. 地域資源を生かした魅力ある稼ぐしごとづくり」に示す通りですが、ご提案いただいた考え方等につきましては、具体的な施策や事業の立案の際の参考とさせていただきます。</p> <p>⑧観光産業の振興につきましては、P20(合冊版 P24)からの「基本目標Ⅱ. 地域の活力と賑わいを生み出すつながりづくり」に示す通りですが、ご提案いただいた考え方等につきましては、具体的な施策や事業の立案の際の参考とさせていただきます。</p>
--	---

	<p>客を作る。特別感を出した方がいいのでは。 海岸沿いをもう少し開発するべき。さびれた感じがする。 ぶどうの樹のような店舗をもっと企画する。ぶどうの樹よりもう少しリーズナブルで利用できるグランピングのできる施設があるといい。 空き店舗を若い起業家に無料で貸し出す。 企業や大学を誘致することを考えるより、今あるものをうまく利用できる方法を考えて欲しい。</p>	
6-4	<p>(基本目標Ⅰについて)</p> <p>①福津産品の販路開拓 まずは福津の産品を1つに絞り、県内・九州内の枠ではなく、日本全国で有名な産品を送り出し「福津市の〇〇」と認知され、「〇〇で有名な福津の△△」と後付けで他の産品の販路開拓があってもよいのではないか。 そのためにはまず市内在住者の認知が重要。</p> <p>②企業や事務所の誘致 大企業を誘致することで20代人口の増加、コロナ禍による企業副業可能の流れにより市内働き手やシニア層の雇用拡充などが期待できるのではないか。</p> <p>(基本目標Ⅱについて)</p> <p>③海岸等で行われる観光イベントについて、数はあるもののインパクトのない小規模な印象。市主催で一体化して、一大化するといいのではないか。</p>	<p>①福津産品のブランディングや販路開拓については、P13（合冊版 P17）の「福津産品の販路開拓」及び P23（合冊版 P27）の「魅力の発信とブランディング」に示す通りですが、ご提案いただいた考え方等につきましては、具体的な施策や事業の立案の際の参考とさせていただきます。</p> <p>②大企業の誘致には用地の確保や税制上の優遇措置など様々なハードルがありますが、P19（合冊版 P23）の「企業や事業所の誘致」で示すように、本市の特性や社会環境の変化に合った、働きやすい環境を整えられる企業等の誘致に取り組んでまいります。</p> <p>③観光イベントについては、社会的な情勢も踏まえながら、効果的なものとなるように進めてまいります。</p> <p>④子育て中の保護者の方々の相談する場の形成に関しては、P26（合冊版 P30）の「地域での子育て支援の推進」において取り組んでまいります。また、福津市第2期子ども・子育て支援事業計画の方向性をふまえた内容としており、小中学生や高校生も対象として進めてまいります。</p>

	<p>(基本目標Ⅲについて)</p> <p>④子育て支援のデジタル化促進は、一方通行な体制を強く感じる。スマホ時代ではあるが、実際のママたちは常に相談できる相手を探しているのであって、市からの発信ではなく、相談事のマッチングの場、気軽に集える場、愚痴を聞いてもらえる場が求められているのではないか。「基本目標Ⅲ」に就学した子どもや親が全く対象とされていないような感じがする。悩みを抱える小中学生の保護者が相談できる場はないのか。</p>	
7	<p>P12 基本目標Ⅰ. 地域資源を生かした魅力ある稼ぐしごとづくり (基本目標の方向性)</p> <p>・・・新たな担い手が生まれやすい土壌をつくるために、①(文章追加：農漁業の基盤づくりとともに)農水産品とその加工品の認知度向上や販路拡大を進めながら、産業としての魅力の強化とともに、所得の向上につながる取り組みを進めていきます。</p> <p>農業・水産業の振興</p> <p>農業においては、海岸線に近く、霜が降りにくいという自然条件を生かし、キャベツやカリフラワーなどの露地野菜②の栽培が盛んです。また、(文字追加：や)あまおうなどのイチゴの生産にも力を入れています。(文章修正：を行い、大規模経営農家による福岡都市圏、関東、関西の大都市への出荷とともに、小規模高齢農家による地場への供給が行われています。)</p>	<p>①農漁業の基盤づくりに関する取り組みにつきましては、「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」に示す通りとし、本戦略とは区分して整理しておりますので、ご理解賜りたいと思います。</p> <p>②大規模経営農家による福岡都市圏、関東、関西の大都市への出荷及び小規模高齢農家による地場への供給が行われているとの指摘については、市内のすべての農家の方々の出荷状況には当てはまらないものであると考えております。</p> <p>③④新規就業者数に関しましては、ご指摘の通り減少はしておらず、誤解を招く表現であったので、以下のように修正させていただきます。</p> <p>【P12(合冊版P16) 農業・水産業の振興修正】</p> <p>しかしながら、農業、水産業は就業者の高齢化に加えて、新規就業者が少ないことで、担い手という産業を成り立たせるための基盤が大きく揺らいでいます。</p> <p>⑤⑥⑦⑧⑨農地の集約化や耕作放棄地対策、新規就農対策、所得の向上、技術の継承等に関しては、「農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」に示す通りとし、本戦略とは区分して整理しておりますので、ご理解賜りたいと思います。また、国や県、生産者と一体となって取り組みを進めることは、P7(合冊版P11)の「第2期総合戦略の策定にあたっての視点」と同じ考え方であるため、改めて本項では記載しませんが、重要な考え方と捉えております。ご提案いただいた考え方等につきましては、具体的な施策や事業の立案の際の参考とさせていただきます。</p> <p>⑩持続可能な1次産業に関する市の考え方を示す箇所ですので、原文通りとさせていただきます。</p>

	<p>・・・しかしながら、農業、水産業は就業者の高齢化や③新規就業者数の減少により、担い手という（不足が継続し、）産業を成り立たせるための基盤が④大きく揺らいでいます。この状況に対応するために、⑤（文章追加：農地の集約化や耕作放棄地対策、新規就農対策を行うとともに、）農水産物とその加工品の認知向上や販路拡大を進めながら、⑥（移動・修正：所得の向上、技術の継承、担い手の創出を行い）産業としての魅力を強化⑦することや所得の向上、技術の継承、担い手の創出を進め⑧（文字追加：し）ます。⑨（文章追加：また、進めるに当たっては、国や県、生産者団体と一体となって進めていきます。）また、豊かな農地や漁場⑩を有していますが、資源から採り続けるだけでは、持続可能な1次産業は成り立ちません。豊かさを後世に残すためにも、農地や漁場の保全等はもちろんのこと、新たな資源形成に力を注ぎます。</p>	
8	<p>①国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略令和元年12月」の基本目標2「地方へのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる」ため、シングルマザーを積極的に受け入れる施策を提案します。</p> <p>I. 地域資源を生かした魅力ある稼ぐしごとづくり</p> <p>1. 農業・水産業の振興</p> <p>1) 本市の農業と漁業の従業者構成比は2%程度（素案 P15）で、大きな業績向</p>	<p>①他自治体の事例も踏まえ、地域資源を生かす方向性のご提案をいただきありがとうございます。本市の地方創生を推進するにあたって今後大きな課題となるのは、将来的な生産年齢人口の減少に伴う様々な分野での担い手不足と捉えております。そのため、シングルマザーに限定せず、様々なかたがたがまちづくりに関心を持ち、積極的にまちづくりに関わっていただくことで、未来の担い手育成につながるような環境の整備を進めていきたいと考えております。</p> <p>個別の事業に対するご意見は、今後の施策や事業立案の参考とさせていただきます。</p>

	<p>上は困難で、地道な努力が必要と思われます。</p> <p>2) 農業振興にはシングルマザーを地道に受け入れ、農業女子に期待します。</p> <p>3) 県内唯一の福岡県立水産高等学校が立地し、市内には水産業の人的な財産である「担い手のたまご」たちと地道なコミュニケーションが可能です。</p> <p>奨学金などを拠出して、市内での水産業の担い手に期待します。</p> <p>2. 商工業の振興</p> <p>1) 市内で最大の発注機関である市役所の調達に際し、「地域要件」や「地域貢献度の評価」を見直し、市内の中小企業に受注の機会を広げてください。</p> <p>商工会議所ともコミュニケーションをとり、品質確保や税金の無駄遣い防止にも知恵を絞り、市内の地道な活性化に尽力してください。</p> <p>2) 「福津いいざい」商品を市内の小売店、スーパーマーケットに販路を広げ、地産地消を地道に進めましょう。</p> <p>例えば、東福間駅前の旧「ショッピングセンターあかし」を借家して、「福津いいざい」で運営しては如何でしょうか。</p> <p>3. 雇用の創出</p> <p>1) 本市では医療や福祉の従業者構成比が約28%（素案 P15）を占め、大きな人的財産です。</p> <p>さらに、市内には宗像看護専門学校、福間看護高等専修学校、宮地嶽神社文華学園と「担い手のたまご」は豊富です。</p>	
--	---	--

	<p>福岡都市圏の成長の影響で、そのベッドタウンとして子育て世代を中心に人口が増加している今は、「担い手のたまご」たちとコミュニケーションを重ね、支援を受けた事業者の新規創業者数20件を地道に目指しましょう。</p> <p>テレワーク移住者の増加も期待できます。</p> <p>Ⅱ. 地域の活力と賑わいを生み出すつながりづくり</p> <p>1. 地域資源を活用した観光の振興</p> <p>1) 福津市の重要な観光資源は宮地嶽神社と海岸線です。</p> <p>福間駅の構内にある福津市観光拠点の福津市観光協会事務局をより多くの観光客と接し情報を収集するために、宮地嶽神社の参道に移転することを提案します。</p> <p>福津観光協会と連携し重点強化と役割分担で効率的な予算執行をお願いします。</p> <p>2) 連携不足が指摘される(観光計画P7) 宮地嶽神社とコミュニケーションを早々にとり、2025年のKPI目標数値を561万人(素案P20)→600万人としては如何でしょうか。</p> <p>観光計画P25で中間目標値は令和7年で631万人との中間値で、観光計画でも600万人と修正しては如何でしょうか。</p> <p>2. 地域の魅力発信による域外との関係構築</p> <p>1) 世界遺産である「新原・奴山古墳群」は宗像市の資源に比較して、単独では売りに乏しい観光資源です。小川知事</p>	
--	--	--

	<p>が提案した「県内の修学旅行」先を目指して、宗像市との協議を早々に推し進めては如何でしょうか。</p> <p>(地方へのつながりを築き、地方への新しいひとの流れをつくる)</p> <p>3. シングルマザーが安心して住めるまち</p> <p>1) 課題の一つである増加する空き家(素案 P4)は、市内の資源と考えられます。</p> <p>空き家を市で借り上げ、市の一部補助金により、市内の不動産会社や建設株式会社の民活力でリフォームし、賃貸運営はできないでしょうか。</p> <p>市の費用は借地費用と一時的なリフォーム補助費用だけです。</p> <p>他の地方自治体との情報交換や連携強化をお願いします。</p> <p>2) シルバー人材センターをゴールド人材センターに発展させ、シングルマザーの就業支援はできないでしょうか。</p> <p>Ⅲ. 希望をもって出産・子育てができるまちづくり</p> <p>1. 子育て支援の充実</p> <p>1) 「子ども支援計画」の地道な取り組みをお願いします。</p> <p>2) 交通の便が良好な福間駅前の3か所の駐輪場を学生たちの自習室や子育て支援センター・児童センターを併用する施設に建て替えることは如何でしょうか。</p> <p>3) 大分県豊後高田市では、保育料と幼稚園授業料の無料化のみならず、子どもの医療費無料化や出産一時金の支給など</p>	
--	---	--

	<p>を実施しています。他の地方自治体との情報交換や研究をお願いします。</p> <p>2. 多世代共生型のまちづくり</p> <p>1) 構成比が約28%を占める医療や福祉の従業者は本市の大きな人的財産です。</p> <p>さらに、市内には福岡県立光陵高等学校、宗像看護専門学校、福岡看護高等専修学校、宮地嶽神社文華学園と「担い手のたまご」は豊富です。</p> <p>IV. 次代の地域を担うひとつづくり</p> <p>1. 地域経済の担い手育成</p> <p>1) 市内3中学校生徒による「こども未来会議」は素晴らしい取り組みです。市外・県外・国外への研修なども含め、地道に継続をお願いします。</p> <p>2) 福岡県立光陵高等学校、福岡県立水産高等学校、宗像看護専門学校、福岡看護高等専修学校、宮地嶽神社文華学園などとのコミュニケーションもお願いします。</p> <p>3) 若者の転出者の削減目標ではなく、転入者と転出者を加味してください。</p> <p>2. 産学官民共働による地域課題解決の促進</p> <p>1) この財政難のとき、「幸せのまちづくりラボ」の新設は反対です。既存組織の活用など効率的な予算執行をお願いします。</p>	
--	---	--